

03 内閣府で歩む道

内閣府では、概ね1~2年程度で人事異動があり、様々な部局の仕事を経験して、ステップアップしていきます。多様なミッションを担う内閣府では、職員のキャリアも人によって様々ですが、この章では、いくつかの内閣府職員のキャリアをご紹介します。

留学

人事院が実施する「行政官長期在外研究員制度」に基づき、入府4~10年目の職員の中から派遣されます。毎年複数名が諸外国の大学院等に留学しています。

海外勤務

課長補佐級になると、各地の在外公館や経済協力開発機構(OECD)、日本貿易振興機構(JETRO)などに出向する機会があります。

秘書官

内閣府は他省庁に比べて大臣などの政務の数が多く、秘書官として働く機会も豊富です。内閣官房長官や内閣官房副長官の秘書官を務めることもあります。

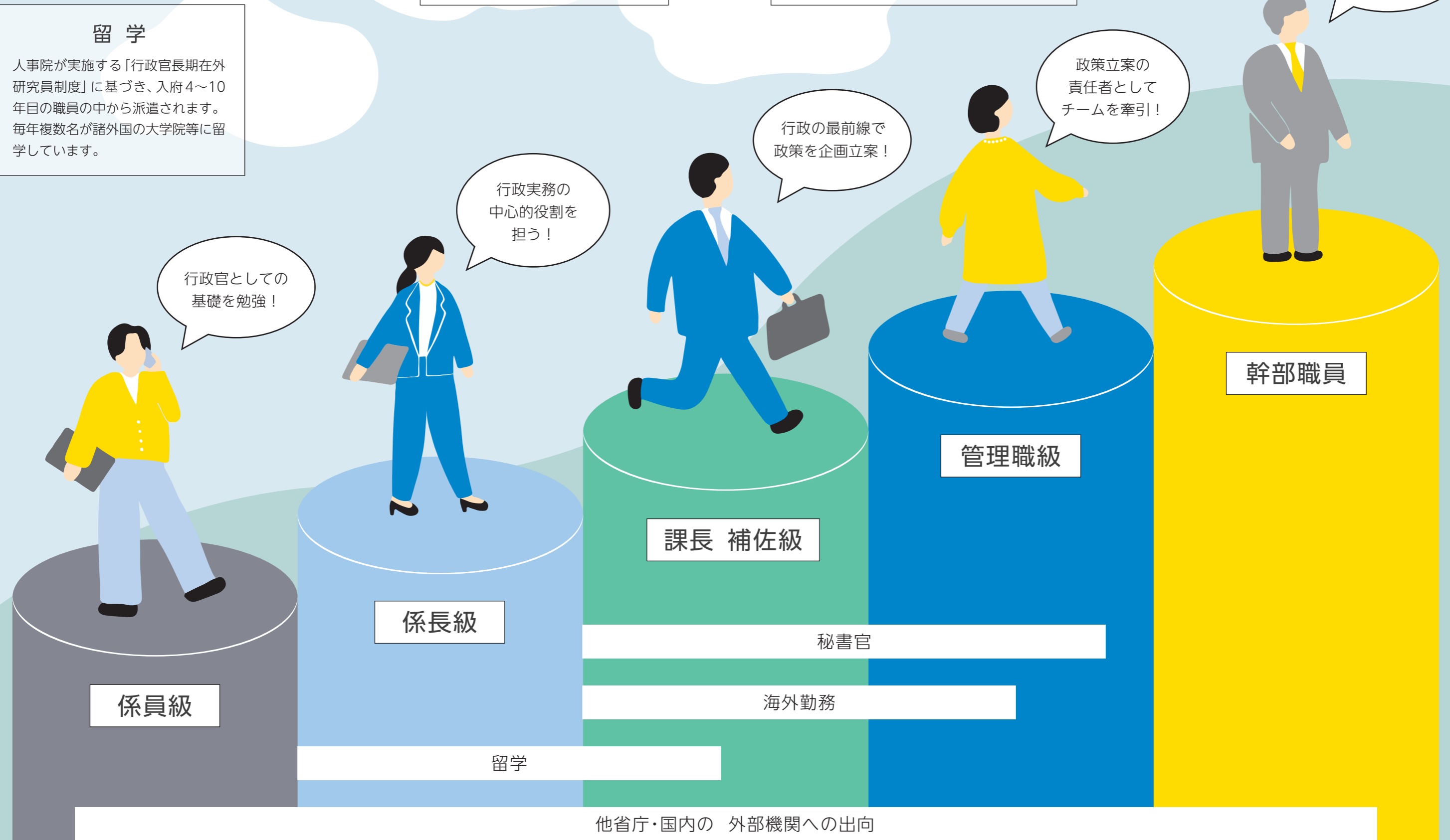
行政官としての基礎を勉強!

行政実務の中心的役割を担う!

行政の最前線で政策を企画立案!

政策立案の責任者としてチームを牽引!

リーダーとして全体を俯瞰し、方向性を示す!



キャリアパス

誰とも違う、私だけが歩んできた道。



係員

政策統括官(共生・共助担当)付参事官(総括担当)付
総括担当主査付藤本 了 *Fujimoto Ryo*MY CAREER!
令和 7年
同年
採用
現職

○ これまでに最もやりがいを感じた瞬間

国会中継で自分のチームが作成した答弁を、実際に総理大臣が答弁している姿を見たとき。

○ 働くうえでのモットー

責任と相手への感謝をもって働くこと。

誰もが自分らしく生きられる社会を目指して

私が内閣府を目指したきっかけは、誰もが自分らしく生きられる社会を作ることができるかもしれない、そう考えたからです。いわゆる性的マイノリティとして、学生時代には「人と違うこと」に対して大いに悩みました。大学では心理学を学び、その道に進もうかとも考えましたが、就活の際に参加した内閣府の講演会にて、「共生・共助担当」という部局があることを知り、ここなら自分の経験を活かして社会を変えることができるかもしれない、そう思い内閣府の門を叩きました。

正確に理解し、担当をサポートする

現職の政策統括官(共生・共助担当)総括担当では、国会対応や各省、局内との調整業務を行っています。具体的な業務としては、国会答弁の取りまとめや国会に係るロジ業務、担当が作成した文書の審査業務、部局SNSの管理・更新などになります。行政官1年目として仕事の基礎はもちろん、国の行政機関がどのような役割を担っているか、また、担当部局の役割や仕事の進め方などを業務を通して学んでいます。私が着任して間もない頃上司に言われたこととして印象的であったことが、「案件を正確に理解しよう。」というもの。総括では局内担当と外部とのつなぎ役、という立ち位置になりますが、局内担当の抱える案件を説明する際に、自分が正確に内容を把握していなければうまく説明することができず、なによりその案件が正常に進んでいるかどうかの判断が総括としてできなくなってしまう。分野の異なる様々な案件を理解することは大変である一方、私に新たな視野を与えてくれます。各担当が行っている業務を間近で見ることができ、「こんなことも内閣府ではやっているんだ！」と日々新鮮な発見があり、それが日々の業務へのモチベーションにつながっています。

一歩ずつ、着実に

内閣府職員としてまだまだ私のキャリアは始まったばかりですが、何事にもポジティブに挑戦していきたいと考えています。内閣府には様々なバックグラウンドを持った職員が働いています。そして幅広い所掌を持った組織である特性があります。私が就職活動をしていた際、それを肌で感じ、ワクワクしたことを覚えています。その初心を忘れずに今後もたくさんの人に支えられながらではありませんが、一歩ずつ進んでいきたいです。海外留学や他省庁への出向、自分の全く明らかな分野での業務などを経験していき、いつの日か自分なりの「ものさし」を持ち、自分の「キャリアパス」に誇りを持てるような日が来るよう、日々精進してまいります。

MESSAGE

内閣府には様々な人が生き生きと仕事をしていて、きっと、あなたが輝く場所でもあるはず。是非一緒に働いてみませんか。



係長

政策統括官(経済社会システム担当)付
参事官(総括担当)付政策企画専門職尾崎 佐知子 *Ozaki Sachiko*MY CAREER!
令和 3年
同年
採用

政策統括官(政策調整担当)付参事官(総括担当)付
併任 子ども子育て本部参事官(総括担当)付
政策統括官(政策調整担当)付参事官(子どもの貧困対策担当)付
併任 内閣官房子ども家庭庁設置準備室室員
子ども家庭庁長官官房(総合政策担当)付企画調整係
情報保全監察室室員
令和 5年
同年
令和 6年
大臣官房総務課調整第2係長
令和 7年
現職

○ あなたにとって、仕事とは

よりよい社会づくりに貢献しながら、自分自身も成長し、人生を豊かにするものだと考えます。

○ これまでに最もやりがいを感じた瞬間

こどもの貧困対策を担当後、こどもの貧困率の減少を確認できたとき、依然として改善が必要な状況ではありませんが、様々な苦労も少し報われたと感じました。

幅広い政策課題と向き合い、着実にステップアップ

入府後、こども政策、安全保障政策、経済財政政策など、我が国が直面する幅広い重要政策課題に携わってきました。組織として最大の力を発揮し、最善の政策を通じて希望を持てる社会を実現するため、必要な知識やスキルを身に付けながら、自分にできる役割に柔軟に取り組んでいます。

私は入府1年目当初、局の総括担当として、子ども・子育て支援法及び児童手当法、障害者差別解消法の改正業務等に携わりながら、国家行政の基本的な業務の流れを学びました。その後、同局内のこどもの貧困対策担当に異動し、コロナ禍により厳しい影響を受けたこどもや家庭への支援の推進に加え、こども家庭庁が新設されるにあたって、こども大綱の策定に向けた有識者会議報告書の取りまとめなどを担当しました。当事者や専門家の御意見、御知見を丁寧に伺い、それらを政策として具体化していくプロセスを学ぶとともに、困難を抱える当事者の切実な声に向き合い、強い使命感を持って働きました。

続いて、こども家庭庁での勤務を経て、情報保全監察室では、特定秘密保護法の適正な運用を確保するため、特定秘密の指定・解除等に関する検証・監察業務を担当するほか、重要経済安保情報保護活用法の制定にあたって検証・監察体制の検討にも携わり、多様な世論が存在する中で、国民の理解を得つつ安全保障上の秘密情報を厳格に管理する取組の一端を学びました。

その後、大臣官房総務課において、新藤義孝内閣府特命担当大臣及び赤澤亮正内閣府特命担当大臣に係る連絡調整や、両大臣の所掌部局における国会対応の連絡調整などを担当しました。大臣周りの業務を学ぶとともに、特に、米国の関税措置への対応では前例のない調整が多数発生する中で、できない理由を積み上げる後ろ向きな調整ではなく、最善策を生み出す前向きなコミュニケーションの重要性を改めて実感しました。

俯瞰的な視点による政策立案・総合調整

現在は、中長期の経済財政政策に関する企画・立案及び総合調整を担う経済社会システム担当の総括を務めています。政府全体の重要課題や予算編成の方向性を示す骨太方針の取りまとめや、方針に盛り込まれた施策の進捗管理も当該部署の重要な業務の一つですが、幅広い政策分野を俯瞰的に総括するにあたっては、これまで異なる各分野で培ってきた経験が、知識・スキル・人脈等の面で大いに役立っています。特に、係長として組織内外で説明や調整を行う機会も増える中、多様な立場の方々へ御理解・御納得いただけるコミュニケーションを心掛けています。

さらに、令和7年度から地方創生伴走支援制度が開始され、私も地方創生支援官として特定の自治体の総合計画策定等に伴走しています。本務と並行して、政府における各分野の取組を踏まえつつ、自治体が直面する課題に向き合い、政策形成に伴走するこの取組においても、これまで各部署で積み重ねてきた力を応用することができ、今後も、国と地方をつなぐ役割を果たしながら、政策の実効性を高める一助となるよう努めていきたいと考えています。

MESSAGE

日本が抱える様々な課題に対応するためには、各省庁においてそれぞれの分野の取組を進めることも重要ですが、内閣府が先頭に立って大きな方向性を決めることも不可欠だと考えます。就職活動では悩むことや迷うことも多くあると思いますが、この冊子などを通じてこうした内閣府の仕事に魅力を感じていただき一緒に働くことができれば大変嬉しく思います。

キャリアパス

誰とも違う、私だけが歩んできた道。



課長補佐

内閣官房副長官補付参事官補佐

新村 太郎 *Shimmura Taro*

MY CAREER !

平成 29年 採用
政策統括官(経済財政運営担当)付参事官(経済対策・金融担当)付
平成 30年 政策統括官(経済財政運営担当)付
参事官(予算編成基本方針担当)付
令和 元年 政策統括官(経済財政分析担当)付参事官(総括担当)付
令和 2年 同 政策企画専門職
令和 3年 復興庁統括官付参事官付主査
令和 4年 男女共同参画局総務課調査室調査統計係長
令和 5年 政策統括官(経済財政運営担当)付参事官(総括担当)付
参事官補佐
令和 7年 現職

○ 休日の過ごし方

土日は家で読書やゲームを、夏季休暇などまとまった
休みが取れた時は旅行で温泉に行きます。

○ 働くうえでのモットー

先を見越して、先手を打って準備する。

これまでの経験と人脈をフル活用

私が現在所属する内閣官房副長官補室は、ほぼ全ての府省庁から
の出向者で構成される、いわばミニ霞が関のような部署で、官邸
と出向元省庁のハブとしての役割を担うとともに、複数省庁に
またがる重要政策の企画立案・調整・進行管理等を行っています。

内閣府や消費者庁の案件を上司の参事官と私の2人のみで担当
しているため、私一人で課長補佐から係員までの役割を担う必要
があり、これまでのポストで得た経験を総動員して軽重様々な
案件に対応しています。また、業務を進める上では内閣府の協力
も不可欠です。日々、内閣府の先輩・後輩に作業や情報提供をお願
いしては、快く対応してもらっており、これまでに築いてきた人脈
が大きな助けとなっています。この9年間の経験に無駄なもの
はなかったと実感しています。

官庁エコノミストに興味を持って内閣府の門を叩いた身からす
ると、これまでのキャリアパスは必ずしも思い描いていたものでは
ありません。しかし、ほぼ全ての政策分野は経済と不可分の関係
にあることを踏まえると、経済財政部局以外のポストでの業務経験
も決して無駄ではなく、むしろ他では得難い貴重なものだと考え
ています。今後も、これまでに得た経験やスキル、人脈をフル活用
しながら様々な業務に挑戦し、国家公務員として、官庁エコノミ
ストとして成長し続けていきたいと思えます。

MESSAGE

内閣府はしがらみが少ない一方、後ろ盾もありません。そうした
環境で、少しずつでも日本を良くしたいと思う方を歓迎します。

役人と官庁エコノミストとしての基礎

私は平成29(2017)年に入府し、まもなく10年目を迎えよう
としています。この間、他省庁への出向を含めて7つのポストを
経験してきました。

最初に配属された経済財政運営担当では、経済対策や骨太方針
について、検討から取りまとめに至る政府内での策定プロセスの
一端を担うとともに、国会対応や予算・会計、文書管理など、役人
として働く上で必須となる業務の基礎を学びました。

その後、3~4年目に配属された経済財政分析担当では、消費税率
の10%への引上げや新型コロナウイルスの感染拡大という激動
の時期に、日本の消費や輸出動向の調査分析、景気の基調判断の
素案作成等に携わり、様々なデータやヒアリング情報を基に日本
経済の動向を把握するエコノミスト業務に従事しました。

特に、消費を担当した1年間は、従来の政府統計に加え、POSデータ
や企業のIR資料など、速報性のある民間データの積極的な活用に
取り組み、消費税率引上げに伴う駆け込み需要と反動減の状況や、
新型コロナウイルスの感染拡大による影響を少しでも早く把握する
ために尽力した、最も学びとやりがいのある時間でした。

データの普遍的な重要性

係長時代では、男女共同参画局に在籍した1年強が強く印象に
残っています。経済財政とは異なり、価値観や理念に基づく議論
が多い分野だと思っていましたが、実際には、データを用いて男女
共同参画の現状を分析し、取り組むべき課題を抽出するなど、政策
立案の基盤としてデータが積極的に活用されていました。係員時
代に経済財政部局で多様なデータに基づいて物事を考えて議論す
る経験が、様々な政策分野で活かすことを体感しました。



管理職

大臣官房政策評価広報課報道室長

梶村 麻衣子 *Kajimura Maiko*

MY CAREER !

平成 16年 採用
平成 18年 政策統括官(経済財政運営担当)付
参事官(経済政策・金融担当)付政策企画専門職
平成 22年 男女共同参画局総務課課長補佐
平成 23年 男女共同参画局推進課課長補佐
平成 24年 育児休業
平成 25年 官民競争入札等監理委員会事務局参事官補佐
併任 公共サービス改革推進室参事官補佐
平成 26年 政策統括官(経済社会システム担当)付参事官(総括担当)付
参事官補佐
平成 27年 政策統括官(経済財政分析担当)付参事官(地域担当)付
参事官補佐
平成 28年 政策統括官(経済財政分析担当)付参事官(企画担当)付
参事官補佐
平成 29年 経済社会総合研究所総務部総務課課長補佐
平成 30年 消費者庁消費者安全課課長補佐(総括担当)
令和 元年 研究休職 (ISEAS-Yusof Ishak Institute (旧 The Institute of
Southeast Asian Studies, Singapore))
令和 3年 育児休業
令和 6年 大臣官房会計課企画調整官(予算総括・企画法規担当)
令和 7年 現職

○ これまでに最もやりがいを感じた瞬間

大きな仕事の後、娘が「仕事する姿かっこいいね」と。
普段と違う姿が将来を考えるきっかけになったようです。

○ 尊敬する内閣府の先輩

知性と優しさ、凜とした強さを備えた方。年次に関係
なく気さくに話してくれる、同性として憧れの存在です。

変化を楽しみ、成長を続ける

仕事は、変化と挑戦の連続です。失敗を恐れず、仲間と一緒に前
に進むことが大切です。内閣府で働いて感じるのは、変化の大きさ。
他省庁と比べてもスピード感があり、入府時には想像していなかつ
たような新しい挑戦が生まれてきます。だからこそ、変化と挑戦
を楽しみながら、自分の成長も社会の未来もつくっていく—そんな
ワクワク感を忘れないでいたいと思っています。また、どんな
時も「国民の信頼に応える」という原点を胸に、誠実さと責任感
を持って行動することも心がけています。

MESSAGE

次世代へつなぐ日本の未来を、一緒につくっていきませんか。
多くの可能性を秘めた皆さん、内閣府でお待ちしています。

政策をタイムリーに届ける、情報発信の最前線

大臣官房政策評価広報課では、内閣府の政策を迅速かつ正確に
伝えるため、記者会見やプレスリリース、インタビューなど、様々な
機会を通じて情報発信を行っています。新聞やニュースで目にする
内閣府の政策は、こうした取組によって皆さんに届けられています。

私は現在、報道室長として、経済財政政策担当大臣及び関連部
局の報道対応を担っており、大臣記者会見の運営、司会進行など
を行っています。定例記者会見に加え、例えば、海外出張直前の空
港など、時間がタイトな場合でも、必要なタイミングがあれば大
臣会見を設定します。また、経済財政諮問会議などの重要会議の
開催や、経済対策のとりまとめ、経済統計の公表など、内閣府から、
日々多くのプレスリリースや記者ブリーフィングが行われます。
その状況を漏れなく管理し、速やかに世の中にお届けすることも
大切な役割です。

情報は「生もの」。政府内や党の動き、海外情勢、市場の動向など、
幅広い情報にアンテナを張り、前例にとらわれず臨機応変に対応
することが求められます。正確な情報発信のためには、大臣、部局、
そして記者との連携・調整が不可欠です。日々のコミュニケーション
を重ね、信頼関係を築きながら、情報発信における円滑な環境
づくりに努めています。

チームの力を引き出す

仕事はチームで進めるものです。記者会見の運営では、大臣室
や幹部、部局、記者など、多くの関係者と調整しながら進めます。
報道は正確さとスピードが重要であり、緊急対応時には冷静さと
柔軟さが求められます。チームの力を最大限に引き出し、安心し
て連携・協力できる環境づくりを重視しており、日頃からメンバー
とよく話しをしています。疑問があればすぐ質問し、何かあった
時にも気軽に相談できるオープンな雰囲気心がけています。
こうしたコミュニケーションを通じて、互いに信頼し合える関係
を築き、困難な状況でもチームで協力して乗り越える環境づくりに
努めることが、管理職としての重要な役割だと考えています。

キャリアパス

誰とも違う、私だけが歩んできた道。



専門的な知見で国家のマネジメントを支える

内閣総理大臣と内閣のリーダーシップを支えることが内閣官房と内閣府の役割です。内閣官房は時々の重要課題に対し、いわばプロジェクト方式で全府省から優秀な人材を集めて機動的に対応します。それに対し、内閣府は経済財政、科学技術・イノベーション、男女共同参画、防災、沖縄・北方対策など国家として継続的に取り組むべき重要課題について、専門性を有する人材を育成しながら「知恵の場」として内閣や総理の意思決定を支えていくことが期待されています。また、内外の環境変化により経済安全保障をはじめ、総理のリーダーシップの下での対応が求められる重要課題が増加しています。こうした新たな課題が所掌事務に加わることも内閣府の特徴の一つです。内閣府で働くことの魅力の一つは、それぞれの専門性を伸ばしながら、様々な重要課題に携わることができることだと思います。

官庁エコノミストの役割とやりがい

私は経済財政分野で主に仕事をしてきました。内閣府では民間エコノミストも行う景気の現状分析や経済見通しの作成といった短期的な経済動向の分析だけでなく、経済財政に関する中長期的な試算の作成などの中長期的な分析、ウェルビーイング指標の構築・分析をはじめ様々な政策課題に応じた多様な分析を行っています。それらの分析はマクロ経済政策の司令塔を担う経済財政諮問会議における審議の材料となり、政府の経済財政政策運営に直接活かされます。取り組むテーマや時間軸に多様性があり、様々な経験を積めること、そして何よりもその分析が国家の判断や政策に直結する影響力と責任を伴うものであることは民間エコノミストや学者と異なる点であり、大きなやりがいにつながるのだと思います。

国民目線で何を考えるべきかを常に考える

内閣府は重要課題についての政策の企画立案を担っています。政策とはすなわち変えていくことだとある先輩がおっしゃっていましたが、その通りだと思います。行政サービスを安定的に提供

幹部

大臣官房審議官(経済財政運営担当)

水田 豊 Mizuta Yutaka

MY CAREER !

平成 8年 採用
平成 13年 留学(英・ロンドン大学)
平成 15年 佐藤剛男副大臣秘書官
平成 16年 産業再生機構担当室参事官補佐
平成 17年 大臣官房総務課課長補佐(調整第2担当)
平成 19年 (独)日本貿易振興機構(JETRO)ニューヨーク事務所
平成 22年 政策統括官(経済社会システム担当)付参事官(総括担当)付参事官補佐
平成 23年 古川大臣秘書官
平成 24年 前原大臣秘書官
同年 政策統括官(経済財政分析担当)付参事官(総括担当)付参事官補佐
平成 26年 同 調査官
平成 28年 計量分析室参事官
平成 29年 経済社会総合研究所情報研究交流部長
併任 大臣官房総務課
平成 30年 政策統括官(経済社会システム担当)付参事官(企画担当)
令和 3年 政策統括官(経済財政分析担当)付参事官(総括担当)
令和 4年 大臣官房参事官(人事課担当)
令和 5年 大臣官房人事課長
令和 6年 経済社会総合研究所総務部長
併任 計量分析室長
大臣官房審議官(経済社会システム及び経済財政分析担当)
令和 7年 現職

あなたにとって、仕事とは

社会に貢献する機会と自分が成長する経験を与えてくれる場。仕事があったからこそ今の自分があると思います。

これまで以上に上司・同僚・部下に言われた、印象的な言葉

政策とは何かを変え、それを実現すること。変える意思がなければ我々に存在価値はない。

することも任務とする各省と比べて、内閣府の職員は国民目線で何を变えていくべきかに常に敏感であることが求められると自戒も込めて思います。そのためにはデータを読み解き、課題を抽出する能力、各省や現場の課題に虚心坦懐に耳を傾ける能力、そして多様な背景・専門性を持つ方々と協力しながら、変化に向けて粘り強く取り組んでいく姿勢が求められます。

MESSAGE

書籍やSNSなどを通じて国家公務員の働き方に課題があることは広く知られてきました。このため、各省や内閣府では業務や働き方などの見直しに懸命に取り組んでいます。「知恵の場」の役割を期待される内閣府では人材育成にも力を入れています。この国の舵取りを担う内閣や総理を支える仕事のやりがいは他に代わるものではありません。内外の環境が激変する中でそのやりがいは一層高まっているともいえます。こうした仕事は時に大変なこともあるのは確かですが、人を大きく成長させてくれます。こうした思いを共有できる皆様の内閣府に加わっていただけることを楽しみにしています。



秘書官

黄川田国務大臣秘書官

大床 怜子 Odoko Reiko

MY CAREER !

平成 21年 採用
国民生活局総務課
同年 消費者庁総務課
平成 22年 大臣官房総務課審査係
平成 23年 民間資金等活用事業(PFI)推進室
平成 24年 同 主査
同年 内閣官房内閣広報室主査
平成 25年 留学(英・ロンドン大学(LSE,UCL))
平成 27年 外務省総合外交政策局安全保障政策課
平成 29年 同 課長補佐
同年 子ども・子育て本部参事官(少子化対策担当)付参事官補佐(企画担当)
令和 元年 消費者庁消費者教育推進課課長補佐(総括担当)
令和 2年 経済協力開発機構(OECD)事務局 科学技術産業局デジタル経済政策課消費者政策アナリスト
令和 5年 大臣官房総務課課長補佐(審査担当)
令和 6年 政策統括官(共生・共助担当)付参事官(共助社会づくり推進担当)付参事官補佐
令和 7年 現職

内閣府を志望した理由

新しい政策課題を、先例主義的な発想に捉われず、省庁横断的に解決できるという点に可能性を感じたため。

働くうえでのモットー

意志あるところに道は開ける。

大臣と部局との円滑な繋ぎ役

現在お仕える黄川田大臣は、特命担当大臣の中で史上最多の担務とも言われ、担当施策は沖縄及び北方対策、消費者及び食品安全、こども政策、男女共同参画、地方創生等と多岐に渡ります。担当部局からの事務説明や国会日程で日々のスケジュールは過密を極めるため、全ての案件に十分な時間を割けるとは限りません。このような場合、大臣秘書官は、大臣と担当部局との間に入り、大臣の指示や、大臣の考える政策の方向性について部局に伝達することが期待されます。また、普段からの大臣の問題意識を踏まえ、事務説明の際のようなご指摘を受けそうか、追加の説明資料の要否、他部局との連携が必要な案件の有無等について確認し、大臣にスムーズに意思決定をしていただけるよう各種調整を行います。内閣府及び他省から出向する秘書官計4名で連携し、担務を分担しながら大臣の公務が円滑に進むようサポートする毎日です。

臨機応変に予定変更に対応

連日非常に過密な日程を組んでいます。当日になって急遽日程変更が必要となる場面は多々あります。流動的な国会日程や飛び込みで至急のご相談が必要な案件、緊急の政務等が発生するような場合、大臣が効率的に時間を使って公務に臨んでいただく上で、日程調整も秘書官の重要な業務です。各種案件の優先順位を見極めながら、日程を組み立て直し、環境を整えます。時には部局に代わって、自身が大臣に御説明を行う事も必要となるため、日頃からアンテナを高くして情報収集を行うと共に、担当部局とのコミュニケーションを密にし、政策の内容や進捗状況を十分に把握しておくことが重要となります。

これまでの業務経験をフルに活用

内閣府の分野横断的な政策に関する業務で得た知識や大臣官房総務課でのマネジメントの経験に加え、出向先の組織で得た様々な経験・交渉力等が、現在の秘書官業務を遂行するに当たって、大いに役立っていると感じます。

まだ秘書官になって数か月程ですが、大臣の意思決定や国会での質疑のサポートに当たっては、日々緊張感とやりがいを持って対応しています。担当部局の中には、来年度以降の抜本的な法改正を見据えた検討の議論を開始した部局もあり、今後もその議論に大臣に適切に参画いただけるよう、自らの知見も深めながら、全力で大臣をお支えしたいと考えています。

MESSAGE

時代の変化を先取りし、常に新しい政策課題に挑戦していきたいという皆さん、ぜひ一度内閣府に足を運んでみて下さい。

内閣府の外から、内閣府を見つめる

海外勤務①

高橋 真也 *Takahashi Shinya*

経済協力開発機構 (OECD) 消費者政策アナリスト

これまでに上司・同僚・部下に言われた、印象的な言葉
「神は細部に宿る」。制度設計の細かい部分にまで手を抜かない上司に言われた言葉です。



各国の消費者と向き合い、国際協調の次の一步をつくる

現在、私は国際機関である経済協力開発機構 (OECD) に出向し、消費者政策分野の政策レポートの作成やエビデンス創出のための実証分析に携わっています。近年の国際的な政策課題について、各国の関心をとらえたインパクトのある政策分析や提言を取りまとめることが主な業務であり、データパターンやオンライン消費者被害の多国間消費者調査、AIなどの新技術の製品安全リスクやグリーンウォッシュ対策の政策レビューなどに取り組んでいます。

OECDの大きな特徴は、意思決定のプロセスと多様性です。定期的で開催する国際的な会合では、加盟国間の合意形成 (コンセンサス) のために丁寧な議論を通して共通理解を積み上げていきます。これは他方で、国際情勢の影響を大きく受けるものでもあり、国際動向を肌で感じる刺激的な仕事でもあります。このような環境でも、内閣府で培った様々なステークホルダーをつなぐ調整力や情報をもとに論点を整理する力は大きな強みとなっています。

今後に活かしていきたいこと

今回の海外出向を通じ、データ分析の専門性を磨くとともに、エビデンスに基づく政策議論の重要性を実践的に学んでいます。この経験を政策プロフェッショナルとしてのキャリア形成に活かしていきたいと考えています。

MY CAREER !

平成21年 採用
消費者庁総務課
平成23年 男女共同参画局推進課
平成24年 大臣官房企画調整課
同年 行政刷新会議規制・制度改革担当事務局
平成25年 規制改革推進室主査
平成26年 経済社会総合研究所国民経済計算部
国民資産課研究専門職
平成28年 個人情報保護委員会事務局主査

平成30年 消費者庁消費者調査課課長補佐 (総括担当)
令和元年 同 総務課課長補佐 (新未来創造戦略本部担当)
令和3年 政策統括官 (経済財政分析担当) 付参事官 (企画担当) 付参事官補佐
併任 参事官 (地域担当) 付参事官補佐
令和4年 政策統括官 (経済財政運営担当) 付参事官 (経済対策・金融担当) 付参事官補佐
同年 農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課課長補佐 (総括)
令和5年 現職

MESSAGE

内閣の重要施策に関わる多様な業務に従事でき、様々なルートからキャリア形成ができるのは、内閣府の魅力です。

海外勤務②

成澤 優拓 *Narusawa Masahiro*

在ロシア日本国大使館一等書記官

働くうえでのモットー

どちらか迷ったら困難な道を選択する。



在ロシア日本国大使館での業務

私は現在、ロシアの首都モスクワにある大使館で勤務し、ロシアのマクロ経済の分析を担当しています。ロシア経済の分析は、特に2022年2月のロシアによるウクライナ侵略後において、対ロシア政策を考える上で基礎となる重要な業務です。各種統計の分析のほか、現地で専門家や他国の外交官との意見交換を通じて、日々ロシア経済に対する理解を深めています。内閣府ではデータとにらめっこする時間が多かったのですが、大使館では外交官として、現地での人との交流も大事にしています。

これまでの経験とやりがい

内閣府ではアメリカ経済の分析や日本の中長期の財政試算などに携わってきました。現地では、その経験が十分に活かされています。ロシアの中央銀行や民間研究機関は政府とは異なる見方や意見を持つことがあり、それらが公表する論文等を読み込むことや、ロシア政府が公表する経済見通しや財政試算を作成者側の考えを斟酌して理解することができています。現在、ロシア政府のHPは日本からは閲覧しにくい状況になっており、また、他国もマクロ経済の専門家を現地に配属するケースは珍しく、現地で経済や生活の実態も肌で感じながら分析業務に携わるのは非常にやりがいのある仕事であると考えています。

MY CAREER !

平成24年 採用
政策統括官 (経済財政運営担当) 付参事官 (総括担当) 付
平成25年 政策統括官 (経済財政運営担当) 付参事官 (経済対策・金融担当) 付
平成26年 政策統括官 (経済財政分析担当) 付参事官 (総括担当) 付
併任 政策統括官 (経済社会システム担当) 付参事官 (総括担当) 付
併任 計量分析室
平成27年 内閣官房副長官補付

平成29年 政策統括官 (経済財政分析担当) 付参事官 (海外担当) 付政策企画専門職
令和元年 政策統括官 (経済社会システム担当) 付参事官 (共助社会づくり推進担当) 付参事官補佐
消費者庁地方協力課課長補佐 (総括担当)
同年 同 総務課課長補佐
令和3年 同 総務課課長補佐
令和4年 藤丸副大臣秘書官
令和5年 井林副大臣秘書官
令和7年 現職

MESSAGE

内閣府は、常に挑戦できる環境と人に恵まれています。業務に少しでも関心があれば、ぜひ訪問してください。

地方自治体

入野 史也 *Irinu Fumiya*

岡山県総社市総合政策部長



日本一市民にやさしいまちを目指して

総社市は岡山県の南西部に位置しており、「日本一市民にやさしいまち」を基本理念に職員が一丸となって取り組んでいます。人口は約7万人ですが、市民の方の反応を実感できる「手ざわり感」のある規模だと思います。私は、総合政策部長として、総合計画の策定、広報、移住・定住促進等の人口増施策や空き家対策、ふるさと納税等を担当していますが、分野横断的に他部局と力を合わせて課題解決に取り組む場面も多くあり、その度に、日々のニュースで地方行政に無関係なものはないと感じます。

地方自治の最前線で学んだこと

総社市の職員の皆さんのスピード感、市民に寄り添う姿勢、国の制度や補助金等についての情報収集力には頭が下がる思いです。業務の中では、自らが携わった制度が活用されていない場面にも遭遇しますが、政策の本来の意図が伝わっていないと感じることもあり、政策の意図や解釈を正確に伝えていくことの重要性を感じます。また、国全体では大きな予算額であっても、地方公共団体あたり、あるいは、市民一人あたりの額にするといくらぐらいなのか、そうした視点の重要性も痛感します。

今後、総社市での経験を糧として政策を立案していきたいと思っています。

内閣府を志望した理由

入府したときには思いもなかった新たな政策課題に常に挑戦できる職場だと感じたから。

MESSAGE

何を経験したかではなく何を感じたかが大切だと思います。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

MY CAREER !

平成25年 採用
政策統括官 (共生社会政策担当) 付参事官 (総括担当) 付主査付
平成26年 消費者庁消費者教育・地方協力課企画係
平成28年 大臣官房公文書管理課公文書管理専門職
併任 大臣官房公文書管理課公文書管理制度整備係長
平成30年 内閣官房内閣総務官室

令和2年 政策統括官 (政策調整担当) 付参事官 (青少年企画担当) 付参事官補佐
令和3年 内閣官房子ども家庭庁設置法案等準備室室員
令和4年 内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室室員
令和5年 大臣官房政策評価広報課課長補佐 (政策評価担当) 併任 大臣官房総合政策推進室参事官補佐
令和7年 現職

他省庁



休日の過ごし方

最近は自宅でドラムの練習をしています。

MESSAGE

内閣府は所掌が大変広いです。その分、どんなことでもできます。「色々なことに挑戦したい」、そんな方はぜひ内閣府へ！

MY CAREER !

令和5年 採用
政策統括官 (防災担当) 付参事官 (総括担当) 付主査付
令和6年 地方分権改革推進室室員
令和7年 現職

西岡 咲季 *Nishioka Saki*

こども家庭庁支援局家庭福祉課係員

こどもの貧困を解消するために

貧困などの困難に直面している子どもたちに、必要な支援を届けていくための事業を担当し、子どもたちの居場所への補助、こどもの声を聴くための調査研究、官公民連携の国民運動の業務に携わっています。困難に直面している子どもやその家族は声をあげにくく、孤立してしまっている場合も少なくありません。必要な支援を確実に届けていくためには、国の支援策はもちろん、地方自治体、NPO法人等の支援団体、企業を巻き込み、社会全体で取り組むことが重要だと考えています。そのために、「現場主義」を掲げるこども家庭庁で、視察に行っている現場を見ながら、日々業務に取り組んでいます。

出向を経験してみても

これまでは「とりまとめ課」にいました。出向ではじめて予算事業をもつ「原課」に配属となり、常に担当業務に対して深い知識が要求され、また予算関連の細かい事務をしています。内閣府はとりまとめをする立場で、内閣府にとっての現場は各省庁です。何をやるにしても各省庁にお願いすることになります。どうすれば日々忙しい業務の中でこちらをお願いに応じてくれるか。妥協点はどのあたりになるのか。原課、現場の立場から「どうやったら折り合えるか」を考えられるようになってきたと思います。

留学



あなたにとって、仕事とは

チームと自己実現。仲間と協力しないと仕事は進まず、自らの力を出し切らないと満足はよく仕事はできません。

MESSAGE

内閣府の魅力は、懐の深さだと思います。いろいろな省庁、企業等からの出向者があり、多様性の源となっています。

MY CAREER !

平成28年 採用
政策統括官 (経済財政分析担当) 付参事官 (総括担当) 付
平成29年 政策統括官 (経済財政分析担当) 付参事官 (企画担当) 付
平成30年 政策統括官 (経済財政運営担当) 付参事官 (経済対策・金融担当) 付

菊地 康之 *Kikuchi Yasuyuki*

ミネソタ大学

留学先について

私は人事院の留学制度を利用し、現在、米国中西部のミネソタ大学データサイエンスコース修士課程に在籍しています。データサイエンスコースは、統計学やコンピュータサイエンスの観点からデータサイエンティストとしての基礎と実務を学ぶコースで、留学1年目の今は、統計の基礎理論やアルゴリズム・データベース理論などについて、演習も交えつつ学んでいます。

留学を志した理由

私が留学を希望した理由は、国際的な視座獲得とスキルアップです。激変する国際環境の中、国内にのみ視点を向け続けても解決しない課題も増えてきました。日本人の少ない地域を敢えて選ぶことで、日本語に甘えず国際的な視点を身に付けようと思いました。授業以外に、大学のイベントなどで交流を深めたりもしています。

また、業務で様々な計量分析をしてきた中で、特にテキストデータの統計を扱う部署にいた時に、プログラミングなどの分野にもっと強ければなあと思う機会が何度かあり、制度を活用してそうしたスキルを身に付けたいと思いました。

内閣府に戻ったら、留学で得たスキルを活かし、国際的な視点をもちつつ、数的な情報が限られる分野でも分析を行い、政策立案へと活かしていきたいと考えています。

MY CAREER !

令和元年 同 政策企画専門職
令和2年 中小企業庁事業環境部金融課企画一係長
令和4年 内閣官房副長官補付
令和6年 政策統括官 (経済財政分析担当) 付参事官 (地域担当) 付参事官補佐
令和8年 留学